

「カラマツ使用広げたい」

北方型住宅や道産材活用アピール

道建築指導センター

北海道建築指導センター（札幌市）は12日、苫小牧市ウトナイ北5のモデルハウスで、北方型住宅技術指導事業現地指導セミナーを開いた。住宅メーカーや施工関係者など36人が参加。道内での生活に適した北方型住宅の設計や施工の注意点、道産材の活用方法を学んだ。

モデルハウスを設計、施工した小松建設（伊達市）の小松幸雄社長は床材に道産カラマツを採用し、ホタテの貝殻をしつこくに活用するなどし

た建物の特徴を紹介。「カラマツは時間がたつと色が変わリ、艶が出る。その良さはお客さまにも理解してもらえらる」などとアピールした。

道立総合研究機構林産試験場（旭川市）の斉藤直人企業支援部長は、ねじれが起きやすいカラマツは、新技術「コアドライ」によりねじれを抑えられたと説明。「地域材は輸入材に比べコストが掛かるが、地元への経済効果が大きい。本州への展開も含め、カラマツの使用を広げたい」と話していた。

